

第3回未来デザイン車座対話まとめ

1. インプットトーク3つの論点

1. 世田谷区では、くじ引き民主主義のワークショップで幅広い層が参加できる機会を設けている。下北沢の再開発では、対立を乗り越え地域全体で新しい価値を創造する動きが生まれた。
2. 日本でも自治体レベルで実施されている気候市民会議など、くじ引き民主主義は、市民が政策決定に参加する新たな民主主義の手法として期待されている。
3. フレーミングの設定次第で関係者が変わるため、合意形成の対象が誰なのかが重要になる。また、一つ的意思決定には複数の価値基準が存在しており、合意形成には同床異夢のように価値基準の多様性を尊重しながら合意することが大事になる。

2. 全体対話3つの論点

1. 皆にとって良いまちを一つつくるよりも、誰かにとっては素晴らしいまちでも、誰かにとってはあまり良いまちではないというまちを、対話によって複数実現することが同床異夢の実現であり、ありたいまちの実現につながるのではないか。
2. AIを使ったとしても、熟議だったとしても、皆が納得する意思決定プロセスが重要。今この瞬間の民意がどこにあるのかを取り出せるAIの特徴と、人の意見が意思決定プロセスのなかで変わりうる熟議の特徴を組み合わせることも一つの形である。
3. 住民による参加型まちづくりにおける熟議を経て、結論に自分たちの意見が反映された手応え感も、まちへの愛着形成や、住民が地域運営のプレイヤーとなるための重要なキーである。行政は、住民がプレイヤーとなる場を設けるコーディネーターとしての役割、政策・計画変更などといった決断を行う最終責任者としての役割が必要とされる。

全体対話サマリー：「公共」の観点から見て、2040年のありたいまちの姿、課題・タブー、解決策は？

